


第 **115** 期

# 中間報告書

2021年4月1日から  
2021年9月30日まで

 **株式会社 中央製作所**

# 株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。

さて、当社第115期第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）の営業の概況につきましてご報告申しあげます。

## 1. 営業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、コロナ禍が長期化するなかワクチン接種の効果も現れ、経済回復を探る動きが本格化してきましたが、世界的な半導体や各種材料のサプライチェーンの寸断が生じ生産納期が悪化する状況でありました。

このような経済状況の中で、当社グループとしては、新規顧客の獲得、新しい価値提供を目的とした新製品・新技術の開発に注力するとともに、競争力強化のためのサプライチェーンの構築・コスト低減などの取り組みに注力し、受注・売上の確保に努めてまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の受注高は1,775百万円（前年同四半期比2.1%増）、売上高は1,738百万円（前年同四半期比20.5%増）となりました。損益については、営業損失54百万円（前年同四半期は営業損失64百万円）、経常損失30百万円（前年同四半期は経常損失21百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失28百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失43百万円）の計上となりました。

以下主なセグメントの業績についてご説明申しあげます。

### （電源機器）

電源機器につきましては、電池業界、自動車関連業界ならびに電子部品業界などを中心に様々な個別の仕様にお応えし、通信機能搭載などの差別化に取り組んでまいりました。その結果、受注高は702百万円（前年同四半期比50.7%増）、売上高は667百万円（前年同四半期比35.2%増）となりました。

今後につきましては、カーボンニュートラルに寄与する回生型充放電装置、高効率電源などの製品の更なる改良を進め、受注・売上の確保に努めてまいります。

### （表面処理装置）

表面処理装置につきましては、自動車関連業界、電子部品業界などを中心に、新規及び更新需要の掘り起こしに注力してまいりましたが、受注高は396百万円（前年同四半期比42.1%減）、売上高は447百万円（前年同四半期比2.7%減）となりました。

今後につきましては、IoT技術を活用した予防保全システムであるCCCS-M（当社グループ商品名）の積極的提案及び更なる改良に努めてまいります。また、既存装置の省力化・省人化ニーズにお応えする改良・改善提案により受注・売上の確保に努めてまいります。

### (電気溶接機)

電気溶接機につきましては、国内市場においては自動車関連業界、鋼製家具業界などを中心に、新規及び更新需要の掘り起こしに注力してまいりました。また、海外市場においても海外代理店との連携を密にして電子部品業界を中心に拡販に努めてまいりました。

その結果、受注高は310百万円（前年同四半期比10.7%増）、売上高は361百万円（前年同四半期比91.8%増）となりました。

今後につきましても、自動車関連業界及び鋼製家具業界を中心に、様々な個別仕様にお応えするとともに、コスト低減に力を入れ、受注・売上の確保に努めてまいります。

### (環境機器)

環境機器につきましては、表面処理装置に付帯する機器として営業に取り組んでまいりましたが、受注高は105百万円（前年同四半期比0.2%減）、売上高は116百万円（前年同四半期比8.2%減）となりました。

今後につきましては、更なる機能改善とコスト低減に取り組んでまいります。

## 2. 今後の見通しについて

今後の見通しにつきましては、設備投資の慎重化や半導体部品の不足による納期遅延や原材料の高騰などが懸念されますが、業績が持ち直している製造業や情報通信業では、中長期の成長につながる投資・次世代自動車・デジタル化需要・DXを活用した合理化・省力化向けの投資は回復基調にあると判断しています。こうしたニーズに対して積極的な提案営業を行い、受注・売上の確保と社内効率化を進め利益確保に努めてまいります。

なお、通期の連結業績予測につきましては、売上高4,100百万円、営業利益50百万円、経常利益70百万円、親会社株主に帰属する当期純利益60百万円となる見通しであります。

また、期末の株式配当につきましては、当社を取り巻く経営環境は今後も厳しい状況が続くものと想定されますが、今後の業績の推移、事業環境などを総合的に勘案し当初の予定通り1株当たり20円の配当を予定しております。

株主の皆様におかれましては、引き続き絶大なるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月

代表取締役社長 後 藤 邦 之

## 四半期連結貸借対照表

(2021年9月30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
<b>流動資産</b>	<b>3,878,162</b>	<b>流動負債</b>	<b>2,085,132</b>
現金及び預金	1,761,373	支払手形及び買掛金	743,262
受取手形及び売掛金	829,627	短期借入金	740,000
電子記録債権	342,737	未払法人税等	8,247
商品及び製品	55,934	その他	593,622
仕掛品	658,006		
原材料及び貯蔵品	111,348	<b>固定負債</b>	<b>544,316</b>
その他	119,434	長期借入金	40,000
貸倒引当金	△300	退職給付に係る負債	259,962
		その他	244,354
<b>固定資産</b>	<b>1,032,306</b>	<b>負債合計</b>	<b>2,629,449</b>
有形固定資産	280,902	(純資産の部)	
無形固定資産	68,423	<b>株主資本</b>	<b>2,063,795</b>
投資その他の資産	682,980	資本金	503,000
		資本剰余金	225,585
		利益剰余金	1,351,379
		自己株式	△16,169
		<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>217,224</b>
		その他有価証券評価差額金	209,048
		為替換算調整勘定	8,175
		<b>純資産合計</b>	<b>2,281,019</b>
<b>資産合計</b>	<b>4,910,468</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>4,910,468</b>

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期連結損益計算書

(2021年4月1日から  
2021年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	金 額
売上高		1,738,489
売上原価		1,361,428
売上総利益		377,061
販売費及び一般管理費		431,354
営業損失		△54,293
営業外収益		
受取利息	492	
受取配当金	4,750	
補助金収入	19,617	
その他	3,118	27,978
営業外費用		
支払利息	3,214	
その他	917	4,132
経常損失		△30,446
特別利益		
固定資産売却益	29	
投資有価証券売却益	5,565	5,595
特別損失		
固定資産処分損	0	0
税金等調整前四半期純損失		△24,851
法人税、住民税及び事業税	939	
法人税等調整額	2,606	
四半期純損失		△28,397
親会社株主に帰属する四半期純損失		△28,397

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 役 員

(2021年9月30日現在)

代表取締役社長	後 藤 邦 之
取 締 役	柘 植 良 男
取 締 役	若 尾 正 一
取 締 役	丸 山 裕 海
取 締 役	岡 田 浩 義
取 締 役	柳 澤 幸 輝
取 締 役	加 藤 茂
常 勤 監 査 役	渡 邊 良 造
監 査 役	入 谷 正 章
監 査 役	山 崎 裕 司

- (注) 1. 取締役柳澤幸輝、加藤茂の両氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
2. 監査役入谷正章、山崎裕司の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
3. 社外取締役加藤茂、社外監査役入谷正章及び山崎裕司の各氏は、名古屋証券取引所規則に定める独立役員であります。